

県道金沢鎌倉線の交通渋滞を  
考える地域住民の会

鎌倉市交通計画検討委員会専門部会  
部会長 久保田 尚

「新規循環バスの社会実験」についての意見書に対する回答

日頃より、鎌倉市の交通政策にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

鎌倉市交通計画検討委員会専門部会では、鎌倉地域の交通渋滞の緩和や、交通渋滞がもたらすバスの定時性や速達性の低下、歩行者の安全性の低下等に対する様々な施策について、実現可能な取り組みから順次進めていく方針で検討を進めております。

こうした中、平成7年、平成24年に実施した市民アンケートでは、二階堂、浄明寺、十二所等の県道金沢鎌倉線の地域において、「渋滞が耐え難いほど深刻である」という回答が他の地域に比べ高いことが確認されており、平成24年では二階堂、浄明寺が57.1%、十二所が66.7%に及んでいます。

同専門部会では早急に何らかの実現可能な施策の提案とその効果の確認が必要であるとの意見で一致し、その提案の1つとして、関係機関との調整を経て実施することとなったのが、今回の新規循環バスの社会実験ですので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

さて、平成26年1月31日付の意見書につきまして下記のとおり回答させていただきます。

記

1. 利便性について

新規循環バスの利便性について、平成8年の交通実態調査では、太刀洗から鎌倉駅まで通常15分程度のバス所要時間が渋滞ピーク時には2時間を超え、その内停車時間が1時間29分にも及ぶことが確認されております。現在もバス事業者調べによる鎌倉駅の到着時間調査結果等により、交通渋滞の影響を受け、遅れが生じている状況を把握しています。

さらに、鎌倉地域の交通渋滞が著しいゴールデンウィークの平成25年5月4日（土）に行った一般車による社会実験ルートと、県道金沢鎌倉線の既設路線バスルートの所要時間の比較では、次のような結果となりました。

- ・ 午前10時から午後4時では既設ルートよりも社会実験ルートの方が鎌倉駅までの所要時間が短く、最大で1時間3分、午前11時から16時の間で最小でも15分程度の差があること
- ・ 午前9時から10時、17時以降は既設路線バスルートの方が速いこと

以上の結果から、バス利用者の総利用時間の短縮や公共交通利用の満足度が高まることが推定されるため、その検証を目的として社会実験を行うものです。

また、交通渋滞のピーク時に、久木踏切で対向車を止めることや中型バス20数台を運行することによる更なる渋滞の発生については、新規循環バスは1時間で2～3本程度を予定していることから、循環バス運行は交通渋滞を悪化させるほどの恐れは少ないと考えていますが、今回の実験により検証するものと考えております。

## 2. 安全性について

実験中は、久木踏切をバスが渡る際の安全配慮のため、交通管理者の神奈川県警察本部交通規制課、逗子警察署、鎌倉警察署、道路管理者の横須賀土木事務所、逗子市役所及びバス事業者の立会いの下、試験走行を実施し、神奈川県警察本部からの指導により踏切周辺に2名、県道鎌倉葉山線の右折に1名、久木ハイランド入口交差点に1名の計4名の誘導員を配置するものです。

また、踏切を渡る際のバスの揺れに対する乗客への安全についても、運転手が十分注意を払い、速度を落とすなどして対処するとともに、注意喚起のアナウンスを行うなど、バス事業者と協力して対処してまいります。

## 住民ニーズに適した交通政策の提案について

ご指摘の渋滞ピーク時の数時間の流入規制や朝比奈 IC 周辺のパーク & ライドの実施に向けては、現在、専門部会でもその具体化や、実現可能性等について様々な検討を進めています。

平成 24 年に実施した市民アンケートでは、二階堂、浄明寺、十二所の地域について次のような意向が整理されています。

鎌倉地域の交通渋滞の解消策として自動車の乗入れや走行を制限するとした考え方に対して、  
どのようにお考えですか？

賛成でありすぐに行うべきである：34%

賛成であるが、効果や影響を確かめて、現実的な方法で行うべきである：44%

道路交通は自由にすべきである。制限は望ましくない：7%

今後、提案された施策の効果や影響を確かめて、実現可能な方法を検討し、必要な社会実験を繰り返しながら、問題解決に努めてまいります。

観光バスの乗り入れについては、渋滞の一因となっていることも考えられるため、何らかの流入抑制が必要であることから検討を進めています。

鎌倉地域の交通渋滞の解消につきましては、様々な議論を重ね今後も鋭意検討を進めてまいります。県道金沢鎌倉線の交通渋滞を考える地域住民の会の皆様方においても、引き続きご意見をいただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

以上